

長野県公立高等学校入学者選抜制度(案)について

高校教育課
学びの改革支援課

1 新たな入学者選抜制度のねらい

- (1) 新しい学習指導要領に即して、学力や多様な資質・能力を伸ばすことにつなげます。
中学校での授業への取り組みに加え、様々な学びや活動の成果を幅広く評価し、受検生の持つ多様な資質・能力を評価します。
- (2) 自分らしく学ぶ高校を選択するために、志望校の特色をわかりやすくします。
各高校の特色や、どのような生徒を待っているかを示し、それに基づいた選抜を実施します。
- (3) 目指す高校への挑戦を応援します。
全ての高校において2回の受検機会がある選抜もしくは、1回の受検で2つの異なる基準のある選抜を実施します。

2 現行制度と新たな制度の比較

項目		現行	改正後
受検機会		○ 2回（前期選抜と後期選抜の両方を実施する高校）または1回（後期選抜のみを実施する高校）	○ 同左 ○ ただし、前期選抜の募集人数は、定員の60%以内（現行50%以内）。
前期選抜	選抜資料	○ 面接等、調査書	○ 学力検査、調査書、その他の検査
	選抜方法	○ 選抜資料をもとに、各校が独自の観点により評価し選抜	○ 同左
後期選抜	選抜資料	○ 学力検査、調査書、面接等	○ 学力検査、調査書、その他の検査
	選抜方法	○ 選抜資料をもとに総合的に評価し選抜	○ 同左 ○ ただし、選抜の基準として、共通の枠組みによる基準「A基準」と、各校の独自性を重視した基準「B基準」を設定。 ○ 前期選抜を実施する高校ではA基準による選抜のみを実施。後期選抜のみを実施する高校では、A基準による選抜だけではなく、定員の30%以内でB基準による選抜を実施。（A基準による入学予定者を決定し、次にB基準による入学予定者を決定する。）

【中学生へのメッセージ】

- ・ 授業を大切に、基礎的な知識・技能の習得はもちろん、思考力・判断力・表現力等にも磨きをかけましょう。
- ・ 探究的な学びや、校内外での様々な活動に対して、積極的に取り組みましょう。
- ・ 将来の夢、挑戦したいこと、自分が学びたい学習スタイル、自分の得意分野等に適する高校を選択しましょう。
- ・ 異なる選抜機会を利用して、自分らしく学ぶことのできる志望校にチャレンジしましょう。

3 制度の骨子

(1) 前期選抜

ア 募集人数

- ① 定員の60%以内とし、各校が設定する。
- ② 特色学科¹⁾は90%以内とする。

イ 志願

- ① 各校が設定する募集の観点に応じて志願を行う。
- ② 志願時に入学を辞退しない旨の確約を行い、確約書の提出を求めない。
- ③ 入学予定者となった場合は、その後他の公立高校に志願することはできない。

ウ 選抜資料及びその評価方法

- ① 学力検査²⁾
 - ・「学力検査Ⅰ」及び「学力検査Ⅱ」の2種類の学力検査を実施する。内容は中学校までに学習する基礎的な問題とする。
 - ・「学力検査Ⅰ」は国語、社会、英語(リスニングテストを除く)の3教科について出題。(45分、120点)
 - ・「学力検査Ⅱ」は数学、理科の2教科について出題。(30分、80点)
- ② 調査書
 - ・すべての記載内容を選抜の資料とし、9教科の評定を用いる。
- ③ その他の検査
 - ・「面接」、「プレゼンテーション」、「グループ討議」、「実技」、「小論文」、「学校独自の学力検査」などから、各校が特色に応じて設定する。
 - ・調査書のうち特定の項目を取り出して、その他の検査として用いることができる。

エ 選抜方法

- ① 3つの選抜資料を用いて総合的に評価する。
- ② 「学力検査Ⅰ」と「学力検査Ⅱ」の比率については各校が決定する。

(2) 後期選抜

ア 募集人数

各校の募集人数は、定員から前期選抜における募集人数を除いた数とする。前期選抜の合格者数が募集人数に満たなかった場合は、定員から前期選抜の合格者数を除いた数とする。

イ 志願

各校が設定する募集の観点に応じて志願を行う。

ウ 選抜資料およびその評価方法

- ① 学力検査
 - ・国語、数学、社会、理科、英語(リスニングテストを含む)の5教科の学力検査を実施する。各教科とも50分、100点(合計500点満点)の検査を実施する。
- ② 調査書
 - ・すべての記載内容を選抜の資料とし、9教科の評定を用いる。

1) 本県における特色学科とは、高等学校設置基準第六条における「専門教育を主とする学科」のうち、農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉以外の学科で、現時点においては、理数科、探究科、学究科、国際教養科、国際観光科、スポーツ科学科、音楽科をさす。
2) 「学力検査」とは、長野県教育委員会において作成し、全県共通で行われる検査をさす。

③ その他の検査

- ・「面接」、「プレゼンテーション」、「グループ討議」、「実技」、「小論文」、「学校独自の学力検査」などから、各校が特色に応じて設定する。
- ・調査書のうち特定の項目を取り出して、その他の検査として用いることができる。

エ 選抜方法

- ① 3つの選抜資料を用いて総合的に評価する。
- ② 「A基準」及び「B基準」による2つの選抜基準を設定する。
 - ・A基準は、全県において共通の枠組みで実施する選抜基準とする。
 - ・B基準は、各校の特色に基づき、共通の枠組みにとられない選抜基準とする。
- ③ 前期選抜を行う学校・課程・学科においては、A基準による選抜のみを実施する。
- ④ 後期選抜のみを行う学校・課程・学科においてはA基準及びB基準による選抜を実施する。
 - ・A基準の入学予定者を決定し、次にB基準の入学予定者を決定する。
 - ・B基準による選抜の入学予定者は、定員の30%以内とする。

	A 基準	B 基準
学力検査	○ 全ての教科を評価対象とし、5教科・各100点、500点満点で評価する。	○ 評価に用いる教科や、教科間の比率は各校が決定する。
調査書	○ 9教科の評定を用い、教科間の比率の変更はできない。	○ 9教科の評定を用い、教科間の比率は各校が決定する。
その他の検査	○ 「面接」「実技」「学校独自の学力検査」などから、各校が決定する。 ○ 調査書のうち、特定の項目を取り出して用いる場合もある。 ○ A基準とB基準で評価する対象を変更することができる。	

(3) 再募集

ア 実施校

後期選抜の結果、入学予定者が定員に満たなかった学校・課程・学科において実施する。

イ 募集人数

定員から入学予定者数を除いた人数とする。

ウ 志願

後期選抜の学力検査を受検したもののうち、入学予定者とならなかったものが志願できる。

エ 選抜資料およびその評価方法

後期選抜に準じる。

オ 選抜方法

選抜資料を総合的に判断し、入学予定者を決定する。

(4) その他

ア インフルエンザ罹患患者への追検査については、現在別室受検等で対応している状況を鑑み、全国の動向を注視して検討を進める。

イ 隣接県から通学可能な生徒の受け入れについては、その方策について検討するとともに、関係各県との協議を併せて進めていく。

ウ ICT機器等の活用については、その有効性と信頼性を確認の上、段階的に導入する。

	前期選抜		後期選抜
出題方針	中学校までの学びの中で培った、知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の学力を、総合的に測れるように出題する。		
実施検査	学力検査Ⅰ	学力検査Ⅱ	国語・数学・社会・理科・英語（リスニングテストを含む）の5教科の学力検査
	国語・社会・英語（リスニングテストを除く）の3教科について出題	数学・理科の2教科について出題	
検査時間	45分	30分	各検査50分
配点	120点	80点	各検査100点満点
形式	以下の3つの形式の問題を出題する。 ①選択式問題 ②短答式問題 ③記述式問題（自分の考えをまとめたり、根拠に基づいて論述したりするもの）		
	上記の問題のうち、選択式問題、短答式問題を主として出題する。		上記の問題をバランスよく出題し、特に記述式問題を充実させる。

○英語の4技能評価

英語教育の抜本改革を踏まえ、高等学校入学者選抜学力検査において、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を適切に評価するため、スピーキングテストを導入する方向で検討を継続する。

※スピーキングテストの導入までは、英語の検査問題（リスニングテストを含む）において、「話す」力について間接的に評価する問題を出題する。

5 実施までのスケジュール

時期	教育委員会	各高等学校	新学習指導要領		該当学年
			中学	高校	
2018年度 (平成30)	3月入学者選抜制度(案)公表	「3つの方針」検討	移行期間		小学校6年生
2019年度 (平成31) (令和元)	パブリックコメント実施 入学者選抜制度 公表	実施方法検討 「3つの方針」公表			移行期間
2020年度 (令和2)	周知 前期選抜学力検査 問題例公表	実施方法公表	全面実施	移行期間	中学校2年生
2021年度 (令和3)	選抜要綱 公表 2月～3月 新たな入学者選抜 実施				
2022年度 (令和4)				年次進行で実施	高校1年生

- (1) 新しい入学者選抜制度は2022年度選抜（2021年度末に実施）より始まります。
- (2) 各校の募集の観点・検査内容・選抜方法等は2020年度前半を目途に発表します。
また新たに前期選抜で行われる学力検査の問題例も2020年度中に公表します。
- (3) 各校の実施方法が決定した後、各校では学校案内やホームページへの掲載、体験入学・授業公開・説明会の実施等により、選抜の内容について周知を図ります。